

ムニンツツジの植栽方法の検討
～マルチ・遮光ネット利用と土壤水分条件～

松本 剛・櫻井文隆

(小笠原亜熱帯農業センター)

【目的】

ムニンツツジ(*Rhododendron boninense* Nakai)は小笠原諸島父島固有種であるが、絶滅の危機に瀕している。自生地などに増殖苗の植栽が行われているが、夏を越して生育する割合は低い。ムニンツツジに適した植栽後の管理方法を把握するため、マルチングや遮光の実施、土壤水分条件について検討した。

【試験方法】

試験 1: マルチや遮光ネットを利用した場合の生育状況の把握

無処理, マルチ(枯れヤシ葉チップ)利用, 黒 60%遮光ネットで遮光, 黒 60%遮光ネットで遮光+マルチ(枯れヤシ葉チップ)の 4 区設定し, 2002 年 5 月 12 日に各区共 10 株定植した。遮光ネットは高さ 2m のところ及びその側面に張った。

試験 2: ムニンツツジに適した土壤 pF の把握

土壤 pF を, 1.8, 2.2, 2.6 の 3 区設定し, 2002 年 5 月 12 日に各区共 10 株を露地に定植した。当初, 60%黒遮光下で管理をしていたが, 6 月 27 日に取り外した。土壤 pF の調整には pF メーターを用い, 設定した値を超えた時点で適宜灌水するようにした。

【成果の概要】

1) マルチや遮光ネットの有無における生存株数をみると, 対照区では枯死するものが多く, 半年後には定植時の 10 株から 3 株にまで減少した(表 1)。マルチのみでも半数に減少した。一方, 遮光下のものは 8 割以上生存していた。

2) マルチや遮光ネットの有無における生育状況をみると, 対照区では樹高の伸長は見られなかったが, マルチ利用, 遮光, 遮光+マルチに樹高の伸長が見られた(図 1)。

3) 夏季 1 ヶ月間(7 月 10 日から 8 月 9 日)の各処理の 1 日の最低地温, 最高地温を表 2 に示した。最低地温では大きな差は見られないが, 最高地温では対照区と比べて, マルチのみでは 4.3℃, 遮光では 7.6℃, 遮光とマルチの併用では 9.1℃低くなった。

4) 土壤 pF 毎の生存株数は, pF が 1.8 の場合には全ての株が 11 月まで生育し続けたが, 2.2 と 2.6 の場合は 2 割の株が枯死した(表 3)。2.2 と 2.6 で大きな違いがなかったのは, 降雨により土壤 pF が 2.6 に達したことが少なかったためと思われる。樹高の伸長においても pF が 1.8 の場合が最も良好であった(図 2)。

5) 以上のことから, 日中の地温を低下させることや土壤 pF を 1.8 程度(手で触るとかなり湿っていると感じる)に保つことにより, ムニンツツジの夏越し率を向上させることが可能である。その方法としては, 遮光とマルチの利用が効果的であった。

表1 定植方法とムニンツツジの生存株数の変化

	5月(定植時)	7月	9月	11月
対照	10	10	6	3
マルチ	10	10	6	5
遮光	10	9	9	9
遮光+マルチ	10	9	9	8

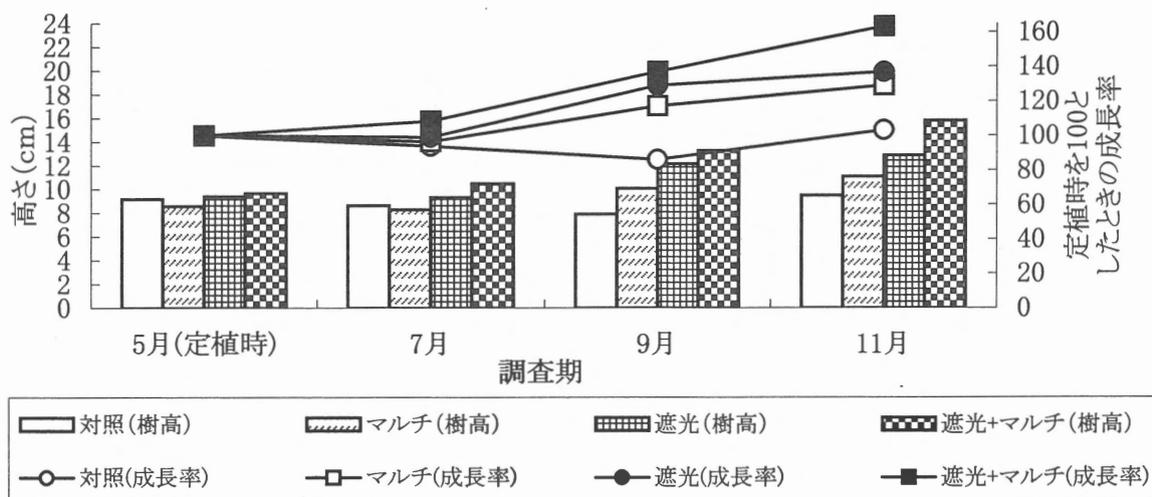


図1 定植方法がムニンツツジの生育に及ぼす影響

表2 7月10日から8月9日までの、1日の最低地温、最高地温の平均(°C)

	最低地温	最高地温
対照	26.5	39.5
マルチ	27.3	35.2
遮光	25.7	31.9
遮光+マルチ	27.0	30.4

表3 土壌pFとムニンツツジの生存株数の変化

pF	5月(定植時)	8月	11月
1.8	10	10	10
2.2	10	8	8
2.6	10	8	8

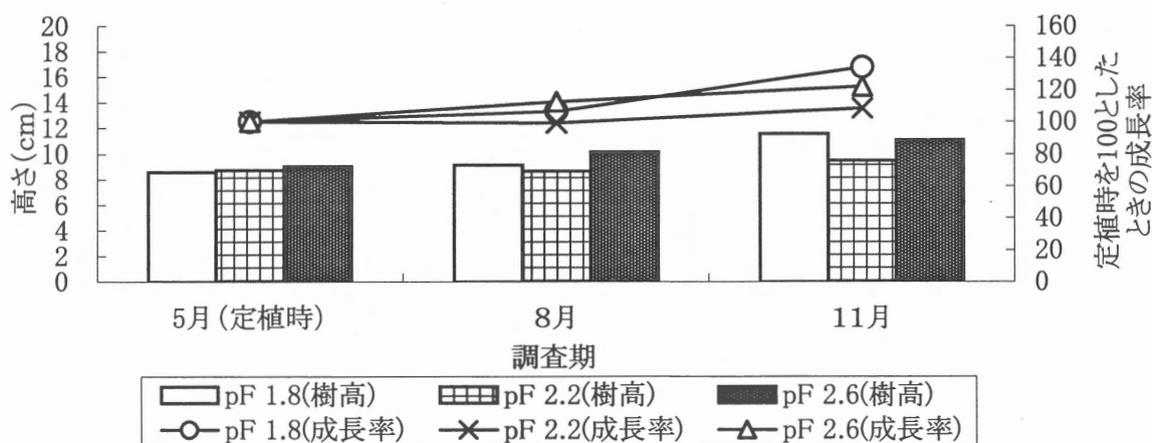


図2 土壌pFがムニンツツジの生育に及ぼす影響